

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ダンスⅡ	授業形態/必・選	実習	必修
	2DVダンス応用		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数 2単位
科目設置学科コース	ダンスヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 ☒	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験12年 数々の有名アーティストのバックダンサーやMVに出演。 テーマパークのバレード・ショーダンサーも務め、幅広く活躍している。 全国一位にもなった高校ダンス部の指導者でもあり、インストラクターとしても活動中。				
授業概要					
ストレッチ・筋力トレーニング(腹筋・背筋・腹斜筋・腕・スクワット・体幹トレーニング)は 毎回行い、踊る上で必要な身体作りを身につける。 コンビネーションに合わせた基礎トレーニング(JAZZ基礎・アイソレーション・リズムトレーニング) を行い、コンビネーションでダンススキルを向上。					
到達目標					
ダンサーとして必要な身体作り・基礎能力を習得する。 振付をただ踊るだけではなく、ステージを意識したダンススキルを習得する。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	基本的な身体作り アイソレーション(首・肩・胸・腰)				
【前期】 6～10回目	リズムトレーニング(16ビート・ダウン・アップ・前のり・後ろのり) HIPHOPコンビネーション				
【前期】 11～15回目	JAZZ基礎(プリエ・バランス・ピルエット・シェネ) JAZZコンビネーション				
【前期】 16～20回目	長めの振付を覚え、自己表現ができるまで踊り込む。20回目前期試験				
【後期】 21～25回目	クロスフロア(パドブレ・ピルエット・アクセル) JAZZHIPHOPコンビネーション				
【後期】 26～30回目	クロスフロア(パドブレ・ピルエット・アクセル・ジャンプ・シェネ・フロア) 邦楽コンビネーション				
【後期】 31～34回目	課題や苦手克服への取り組み。				
【後期】 35～40回目	ステージを意識して、長めの振付を自己表現ができるまで踊り込む。36回目後期試験				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	基礎はもちろん、決められた振付の中で自己表現ができるように挑戦しましょう。				
使用教科書	担当講師自身が考案したテキストを使用。				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ヴォイストレーニングⅡ	授業形態/必・選	実習	必修
	ヴォイストレーニングⅡ		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数 2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 ☒	非該当
担当講師 実務経歴	ESPエンタテインメント東京ヴォーカルコース卒業。在学中に結成した自身のユニットで楽曲リリースやライブ活動後、卒業から1年でESPにてヴォーカルコース講師に就任。現在はヴォーカリストとして活動しつつ、ヴォーカルトレーナーとして声優育成ボイストレーニングを始め、アーティストや俳優等のヴォイストレーニングを担当。また、自身の音楽スタジオも設立し、ヴォーカル講師として多数レッスンをしつつ経営にも携わっている。				
授業概要					
1年ヴォイストレーニングの復習と応用。楽器である身体を鍛える為の筋力トレーニング、体幹トレーニングを行い、更に歌唱時に必要な身体の使い方を学ぶ。シンプルなスケールを使ったメソッドを繰り返し行う。					
到達目標					
各カテゴリーに対して正しい知識を理解すると共に、身体全体を鍛えると共に発声に必要な身体の部位を鍛え、正しく使えることを目的とする。					
授業計画・内容					
【前期】 1～4回目	「Lifestyle、ストレッチ、姿勢、呼吸」一年次の復習と修正。ヴォーカリストに必要な生活習慣のレクチャー、歌う前に身体の緊張を解す準備運動、基本姿勢、発声に必要な横隔膜及び胸郭の使い方を学ぶ。				
【前期】 5～8回目	「腹式」一年次の復習と修正。発声時に腹圧をどのように設定し、それをどの状況でコントロールするのかを、スケール(音階)を使用したメソッドで繰り返しトレーニングする。				
【前期】 9～12回目	「滑舌」一年次の復習と修正。言葉を発する時の唇、舌、顔の筋肉の基本的な使い方を学ぶと同時に、それぞれの部位を正確に動かせるように繰り返しメソッドを行うことで鍛えていく。また、強弱や明暗などのコントロールを応用として行えるようにする。				
【前期】 13～16回目	「共鳴」一年次の復習と修正。音量ではなく“響き”を作る為に必要な副鼻腔、口腔、咽頭の基本的な使い方を学ぶ。更に、様々なトーン(柔らかい、堅いなど)を使い分けられるようにそのコントロール方法も身に付ける。				
【前期】 17～19回目	「高音域①」一年次の復習と修正。高音域を発声するのに必要な声帯及びその周囲の筋肉の基本的な使い方を学び、対してNGパターンも併せて学ぶ。また、ただ発声出来ているだけではなく、必要な共鳴を備え、その度合い(太い、柔らかいなど)をコントロール出来るように様々なメソッドを繰り返し行う。				
【前期】 20回目	前期試験				
【後期】 21～24回目	「高音域②」上の「高音域①」を継続				
【後期】 25～28回目	「支え」一年次の復習と修正。声を真っ直ぐに伸ばす時や音程が上がる時に、その声の共鳴を安定したものにする身体の使い方を、様々なスケールトレーニングを繰り返し行うことにより学ぶ。				
【後期】 29～32回目	「トーンコントロール」一年次の復習と修正。歌詞の内容や曲調に対して必要な声のトーンにはどのようなものがあるかを知り、それらを実際に使える技術を身に付ける。更にどのトーンをどういう場合に使うかのセンスも学ぶ。				
【後期】 33～35回目	「総合①」今まで学んだこと全ての知識、メソッドを復習し、更に完成度を高める。				
【後期】 36回目	後期試験				
【後期】 37～39回目	「総合②」今まで学んだこと全ての知識、メソッドを復習し、更に完成度を高めることを継続する。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	一年時に身に付けた基本的な身体の使い方を常にキープすること。更には得意なものを伸ばし、苦手なものを克服する為の努力を継続させることが大切です。				
使用教科書	全コース共通の教科書を使用				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ソングライティング	授業形態/必・選	講義	必修
	ソングライティング		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数 2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース / ダンスヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 ☒	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験18年 高校卒業後に音楽系専門学校に進学。卒業後はサックス奏者として活動を開始、ジャズを中心にロックやポップス、舞台や映画等で演奏。 その後DTMを始め、作曲家やミキシングエンジニアとして活動の場を広げ、様々なアーティストやや企画に携わる。 現在、自身のバンドやサポート、イベントの企画主催等の活動をしている。				
授業概要					
iPhoneのスマートフォンを使い、GarageBand(Androidの場合は別のアプリ)を使用し、オリジナル曲制作のやり方を身につける。 作詞やメロディ制作、コード進行、レコーディングの仕方を身につけ、最終的には自身のSNS等で配信ができるように学習する。					
到達目標					
オリジナル曲を制作し、ライブやオーディションで活用できるようになる。 自身の活動の場を広げていけるよう、一人でSNS等での配信ができるようになる。 iPadやiPhone、パソコン等でのデジタルでの現代的な方法での作曲の仕方を学習し作れるようになる。					
授業計画・内容					
【前期】 1～2回目	[楽曲制作アプリの使い方の学習] GarageBand(Androidの場合は別のアプリ)の使い方を学習。 基本操作を中心に学習する。				
【前期】 3～8回目	[コード進行とメロディの制作] シンプルな短いコードを作れるようになるため、コード理論を学習。そのコードをアプリに打ち込み、実際に歌ってメロディーを制作。 良いメロディの特徴や良さを分析氏したり、カラオケ音源を使用したりしてメロディーを作成する学習しアプリにて制作を進める。				
【前期】 9～15回目	[楽曲の構成や歌詞の学習] 曲の流れを学習。イントロやAメロ等の曲の構成を学習し、1コーラスの曲の流れを学習。 歌詞のテーマを決め、好きな既存曲の歌詞を分析。コードやメロディを含めアプリにて制作を進める。				
【前期】 16～22回目	[1コーラスの完成] 作った曲をセルフレコーディングをして1コーラスのオリジナル曲を完成させる。 22回目前期試験				
【後期】 23～24回目	[楽曲制作アプリの使い方の学習] GarageBand(Androidの場合は別のアプリ)の使い方を学習。 基本操作を中心に学習する。				
【後期】 25～30回目	[コード進行とメロディの制作] シンプルな短いコードを作れるようになるため、コード理論を学習。そのコードをアプリに打ち込み、実際に歌ってメロディーを制作。 良いメロディの特徴や良さを分析氏したり、カラオケ音源を使用したりしてメロディーを作成する学習しアプリにて制作を進める。				
【後期】 31～36回目	[楽曲の構成や歌詞の学習] 曲の流れを学習。イントロやAメロ等の曲の構成を学習し、1コーラスの曲の流れを学習。 歌詞のテーマを決め、好きな既存曲の歌詞を分析。コードやメロディを含めアプリにて制作を進める。				
【後期】 37～39回目	[1コーラスの完成] 作った曲をセルフレコーディングをして1コーラスのオリジナル曲を完成させる。 39回目後期試験				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	オリジナル曲を作ることができると、たくさん素晴らしい活動ができます。 コードやメロディを作ることは難しそうに感じますが、ポイントをつかむと作れるようになります。 一緒に頑張りましょう。				
使用教科書	講師自身が用意し、学生に配布。				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ソングライティング	授業形態/必・選	実習	必修	
	Dance&Vocal 前期		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	ダンスヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 ☒	非該当	
担当講師 実務経歴	実務経験17年 2009年、ヴォーカルダンスグループでTV局主催オーディションにてグランプリ獲得。 2011年、1stSingleを全国発売。解散後もグループ、コーラス、TV番組仮ヴォーカル・ライブ配信 ライバーやアイドルなど様々なアーティストのヴォイストレーニングも行っている。					
授業概要						

ダンスヴォーカルをパフォーマンスしていく上でのブレない身体の使い方を様々なジャンルで実践する。

到達目標

グループでの歌唱だけではなく、1曲を通して歌って踊るというものを身につける。
歌いながら踊るという事に対しての身体の使い方、歌唱力をキープして、ダンスを取り入れてパフォーマンスの幅を広げる。

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	アップテンポの自身の課題曲を設定し、1コーラス振り付けを踊りながら歌う体力を身につけるブレない身体の作り方を曲を通して身につける
【前期】 6～9回目	ミディアムテンポでの課題曲を設定し、振り付けを踊りながら歌う体力を身につける ブレない身体の作り方を曲を通して身につける。 【オケで取るべき音やプロのアーティストが行っている動きを参考に自分での振り付けも取り入れる】
【前期】 10～13回目	バラードを歌う上で他のジャンルや曲調と差が出過ぎない魅せ方を学ぶ。 オケの後ろの音を取り振り付けに生かして行く。 【表情、手の使い方、目線等】
【前期】 14～20回目	アップテンポ・ミディアム・バラードの中から1曲選り試験に向けてフルコーラスを仕上げていく。 イベントやオーディションにも対応できるような楽曲のバリエーションを増やす。 20回目前期試験
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	振り付けがなくても自分の魅せ方を学ぶ事で どんなジャンルや曲調でも自信を持ったパフォーマンスが出来るようになります！ 何事も挑戦してみて自身の得意な事を伸ばしていきましょう！
使用教科書	担当講師独自在が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ソングライティング		授業形態/必・選	実習	必修
	Dance&Vocal 後期			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	ダンスヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当	☒	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験17年 2009年、ヴォーカルダンスグループでTV局主催オーディションにてグランプリ獲得。 2011年、1stSingleを全国発売。解散後もグループ、コーラス、TV番組仮ヴォーカル・ライブ配信 ライバーやアイドルなど様々なアーティストのヴォイストレーニングも行っている。					
授業概要						

ダンスヴォーカルをパフォーマンスしていく上でのブレない身体の使い方を様々なジャンルで実践する。

到達目標
グループでの歌唱だけではなく、1曲を通して歌って踊るというものを身につける。 歌いながら踊るという事に対しての身体の使い方、歌唱力をキープして、ダンスを取り入れてパフォーマンスの幅を広げる。

授業計画・内容	
【後期】 1～4回目	アップテンボの自身の課題曲を設定し、1コーラス振り付けを踊りながら歌う体力を身につける ブレない身体の作り方を曲を通して身につける
【後期】 5～9回目	ミディアムテンボでの課題曲を設定し、振り付けを踊りながら歌う体力を身につける ブレない身体の作り方を曲を通して身につける。 【オケで取るべき音やプロのアーティストが行なっている動きを参考に自分での振り付けも取り入れる】
【後期】 10～14回目	バラードを歌う上で他のジャンルや曲調と差が出過ぎない魅せ方を学ぶ。オケの後ろの音を取り振り付けに生かして行く。【表情、手の使い方、目線等】
【後期】 15～19回目	アップテンボ・ミディアム・バラードの中から1曲選び試験に向けてフルコーラスを仕上げていく。 イベントやオーディションにも対応できるような楽曲のバリエーションを増やす。 39回目後期試験
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	振り付けがなくても自分の魅せ方を学ぶ事で どんなジャンルや曲調でも自信を持ったパフォーマンスが出来るようになります！ 何事も挑戦してみて自身の得意な事を伸ばしていきましょう！
使用教科書	担当講師独自在が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択アンサンブルⅡ(前期)	授業形態/必・選	実習	必修
	アンサンブルⅡ_(前期)		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数 1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 ☒	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験27年 1983年にメジャーデビュー。その後ヴォイストレーナーとして数多くのメジャーアーティストの指導を行う傍ら、現在もヴォーカリストとして活動を続け、ロードレースのテーマソングを歌う、デビューしたバンドの再結成全国ツアーを三年連続で行うなど、精力的に活動中。				
授業概要					
既成曲または学生の制作したオリジナル曲を題材に、互いにコミュニケーションをとりながら周りの人の音をよく聞き、合わせる力を磨く。 アンサンブルフェスティバル＝ライブを想定した楽曲やライブ構成(MCや曲間の繋ぎ)、アンサンブルに必要な要素(テンポ、譜面、リズムの取り方、パフォーマンス)の重要性を学ぶ。 題材楽曲を通して演奏方法や楽曲に適したアレンジ方法、聞き手への伝え方を学ぶ。 MV・DVダンス学生が半期で入れ替えの為、半期毎の目標に向かって経験に応じたスキルアップを目指す。通年必修の学生は①～⑧課題曲に取り組み、迅速な対応と理解を深める。					
到達目標					
合奏する事やライブの楽しみ方・喜びを知り、それを自身の演奏や表現で他者にも伝えられるようになる。 授業内アンサンブルクラスでの関わりを通して「自分の役割」を理解・見つける経験を積み、音楽人としてだけでなく今後の社会生活にも役立てる。 コミュニケーション能力やアレンジ能力に長けたアーティスト・ミュージシャンとして現場で活躍できる人材となる。					
授業計画・内容					
【前期】 1～18回目	アンサンブルとは何か ・アンサンブルに対する目的意識や達成目標の確認 ・アンサンブルクラス内での顔合わせ・自己紹介 ・各パートのセッティング方法 ・読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識(五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど)の復習、確認。 課題曲①～④ ・既成楽曲(課題曲①ミディアムテンポ8ビート⇒課題曲②アップテンポ8ビート⇒課題曲③ミディアムテンポ16ビート⇒課題曲④8分の6拍子、8ハネ、16ハネ、テンポが一定でない雰囲気重視の曲)またはオリジナル曲を4～6週毎に題材とし、演奏方法や楽曲の要点を見つける。 ・互いにコミュニケーションをとり、周りの人の音をよく聞いて演奏。各パートの関連性を理解する。 ・アレンジ(キメやブレイク、始まり方や終わり方の工夫、各パートのプレイヤーが目立つ構成、それに伴うセクションの小節数の伸縮、リズムパターン、テンポチェンジ、キー調整や転調など)の案を出し合い、原曲をただコピーするだけではなくカヴァーとして成立させる。楽曲としての完成性や見せ方を追求。 ・リズムの感じ方及び取り方を合わせる。 ・題材楽曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を制作。補足情報やアレンジの変更点を音符や記号を使い譜面に反映させる。 ・聞き手を意識したトータルのプロデュース。 アンサンブルフェスティバルの事前資料作成 ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンブルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。 アンサンブルフェスティバルへ向けて ・歌詞、譜面を外して他のパートを気に掛ける(目や耳を傾ける)余裕を身につけ、パフォーマンスの質を上げる。 ・アンサンブルフェスティバルのステージを見据えたりリハーサル(MCや曲間の流れの確認)を行う。 ・スムーズな転換の手順を確認。 ・音響・照明設備のあるステージ(アンサンブルフェスティバルの舞台)に立ち、ライブを行う。 ・ライブの楽しさを知り、演者以外の学生もイベントの雰囲気作りに加わる。				
【前期】 19回目	半期のまとめ ・「前期試験」 ・アンサンブルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	楽器やシールド・チューナー・エフェクターは自身の物を持ち込みましょう！※外部では持ち込みが常識です。1クール間(課題曲が切り替わるまで)はレンタル可。 一人が休むと授業の進捗に支障が出ると同時に、最も大切な信用を失ってしまいます。リハや本番に穴を開けると同じと考え、どうしても休む際は学生間で事情を伝えるなどバンドメンバーの一員としての自覚と責任を持ちましょう。 今後の人生を豊かにする為にも他者との関わりを積極的に持ち、前向きな姿勢で取り組んでください。 生音の体感やアンサンブルの仕組みを知る事で創作や演奏の幅も広がります。他の授業で学んだ事を実践できる場ですので、楽しみながら皆で盛り上げていきましょう！				
使用教科書	担当教員または学生の制作した譜面				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択アンサンプルⅡ(後期)	授業形態/必・選	実習	必修
	アンサンプルⅡ(後期)		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数 1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 ☒	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験27年 1983年にメジャーデビュー。その後ヴォイストレーナーとして数多くのメジャーアーティストの指導を行う傍ら、現在もヴォーカリストとして活動을続け、ロードレースのテーマソングを歌う、デビューしたバンドの再結成全国ツアーを三年連続で行うなど、精力的に活動中。				
授業概要					
既成曲または学生の制作したオリジナル曲を題材に、互いにコミュニケーションをとりながら周りの人の音をよく聞き、合わせる力を磨く。 アンサンプルフェスティバル＝ライブを想定した楽曲やライブ構成(MCや曲間の繋ぎ)、アンサンプルに必要な要素(テンポ、譜面、リズムの取り方、パフォーマンス)の重要性を学ぶ。 題材楽曲を通して演奏方法や楽曲に適したアレンジ方法、聞き手への伝え方を学ぶ。 MV・DVダンス学生が半期で入れ替えの為、半期毎の目標に向かって経験に応じたスキルアップを目指す。通年必修の学生は①～⑧課題曲に取り組み、迅速な対応と理解を深める。					
到達目標					
合奏する事やライブの楽しみ方・喜びを知り、それを自身の演奏や表現で他者にも伝えられるようになる。 授業内アンサンプルクラスでの関わりを通して「自分の役割」を理解・見つける経験を積み、音楽人としてだけでなく今後の社会生活にも役立てる。 コミュニケーション能力やアレンジ能力に長けたアーティスト・ミュージシャンとして現場で活躍できる人材となる。					
授業計画・内容					
【後期】 1～17回目	アンサンプルとは何か ・アンサンプルに対する目的意識や達成目標の確認 ・アンサンプルクラス内での顔合わせ・自己紹介 ・各パートのセッティング方法 ・読譜、楽譜の作成に必要な基礎知識(五線、小節、音部記号、速度記号、反復記号、リハーサルマークなど)の復習、確認。 課題曲①～④ ・既成楽曲(課題曲①ミディアムテンポ8ビート⇒課題曲②アップテンポ8ビート⇒課題曲③ミディアムテンポ16ビート⇒課題曲④8分の6拍子、8ハネ、16ハネ、テンポが一定でない雰囲気重視の曲)またはオリジナル曲を4～6週毎に題材とし、演奏方法や楽曲の要点を見つける。 ・互いにコミュニケーションをとり、周りの人の音をよく聞いて演奏。各パートの関連性を理解する。 ・アレンジ(キメやブレイク、始まり方や終わり方の工夫、各パートのプレイヤーが目立つ構成、それに伴うセクションの小節数の伸縮、リズムパターン、テンポチェンジ、キー調整や転調など)の案を出し合い、原曲をただコピーするだけではなくカバーとして成立させる。楽曲としての完成性や見せ方を追求。 ・リズムの感じ方及び取り方を合わせる。 ・題材楽曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を制作。補足情報やアレンジの変更点を音符や記号を使い譜面に反映させる。 ・聞き手を意識したトータルのプロデュース。 アンサンプルフェスティバルの事前資料作成 ・セット図の書き方を学び、作成する。 ・アンサンプルフェスティバル本番仕様の尺やアレンジ、メイクや衣装も当日のものとする。 ・本番を想定した演奏動画の撮影を行う。 アンサンプルフェスティバルへ向けて ・歌詞、譜面を外して他のパートを気に掛ける(目や耳を傾ける)余裕を身につけ、パフォーマンスの質を上げる。 ・アンサンプルフェスティバルのステージを見据えたリハーサル(MCや曲間の流れの確認)を行う。 ・スムーズな転換の手順を確認。 ・音響・照明設備のあるステージ(アンサンプルフェスティバルの舞台)に立ち、ライブを行う。 ・ライブの楽しさを知り、演者以外の学生もイベントの雰囲気作りに加わる。				
【後期】 18～19回目	半期のまとめ ・「前期試験」 ・アンサンプルフェスティバルや通常授業を振り返り、反省点や良かった点をピックアップ。今後どうすれば更に向上出来るかを話し合う。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	楽器やシールド・チューナー・エフェクターは自身の物を持ち込みましょう！※外部では持ち込みが常識です。1クール間(課題曲が切り替わるまで)はレンタル可。 一人が休むと授業の進捗に支障が出ると同時に、最も大切な信用を失ってしまいます。リハや本番に穴を開けると同じと考え、どうしても休む際は学生間で事情を伝えるなどバンドメンバーの一員としての自覚と責任を持ちましょう。 今後の人生を豊かにする為にも他者との関わりを積極的に持ち、前向きな姿勢で取り組んでください。 生音の体感やアンサンプルの仕組みを知る事で創作や演奏の幅も広がります。他の授業で学んだ事を実践できる場ですので、楽しみながら皆で盛り上げていきましょう！				
使用教科書	担当教員または学生の制作した譜面				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	REC	授業形態/必・選	実習	必修
	RAP&REC		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数 2単位
科目設置学科コース	ダンスヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 ☒	非該当
担当講師 実務経歴	仁井山 2005年ユニバーサルミュージックより戦慄のラッパーとしてメジャーデビュー。RAP以外に有名CMのナレーションやイベント司会、舞浜テーマパークアクター、作詞、作曲、楽曲制作等、様々なフィールドで活躍中。NHKみんなの歌MOTTAINAIや北海道でお馴染みジンジンジンギスカンは代表作の1つ。				
授業概要					
フリースタイルRAPや、RECの応用					
到達目標					
曲のイントロや曲間、MC等、様々な場所でRAPを使いこなす。 EQやリバーブ、コンプレッサーやディレイ等、エフェクトを使用したRECの知識を習得。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	MC用フリースタイルRAP。楽曲以外の場面でもMCや曲間、メインボーカルを引き立たせる為の合いの手や、曲を彩る為のRAP等そういった使い方を覚えていきます。その為には多少のフリースタイルRAPが必要になりますので、少しずつ覚えていきましょう。 先ずはよく使われるフレーズを50程覚え、会話の中にそれを組み込んでいきます。 そのうち自由にフリースタイルが出来るようになりますよ。				
【前期】 6～10回目	フリースタイルをREC。覚えたRECの知識を使って自分のフリースタイルをRECします。 どこがカッコよくて、どこがイマイチなのか？ そういった事を研究していきます。自分なりの言葉で表現できるように練習していきます。 オリジナルな言葉を持つ事で、自分に自信を つけていきましょう。				
【前期】 11～15回目	ステージ用、実践用フリースタイルRAP。 ステージで数分間、間を繋がないといけない状況になったり 歌詞が飛んでしまっ分らなくなってしまうなど そういった状況に対応できるようにフリースタイルを強化していきます。 様々な状況を想定して練習していきますよ。				
【前期】 16～22回目	成長したフリースタイルをREC。RECしたフリースタイルをなん度も聞き直して 自分の中に擦り込んでいくレッスンを行います。 自分がどんな言葉をよく使うのか？逆にどんな言葉に対しての韻が弱いのか？ それを知ることによって実力を上げていきます。自分を見直して底力を付けていきましょう。 22回目の授業で前期試験を行います。				
【後期】 21～25回目	フリースタイルで得た知識を使ってRAPの楽曲製作。もうかなりの実力が付いてきている頃だと思います。 今持てるRAPの実力全てを使って自分のオリジナルRAPに挑戦していきます。 リズム、FLOW、韻、声質や、どんなビートをセレクトするのか？ 全て自分で考えて製作をしましょう。 こういった事が自分に自信が持てるようになる事にも繋がっていきます。				
【後期】 26～30回目	制作した楽曲を自分たちでREC。さあ、この課題が最後と言っても過言ではありません。 皆さんが今まで得た知識を最大限に使って楽しみながらTRYしてください。 先生はあまり口を挟まず、皆さんの思うように製作をして自立心やアグレッシブな精神を身につけて欲しいと思っています。				
【後期】 31～35回目	フリースタイルでクラスメイトとディスカッション。フリースタイルの上達方法として、仲間とのサイファーが1番の経験値になります。 恥ずかしい気持ちもあると思いますが、楽しみながらやってみましょう。 日常にRAPを取り込む事で、自然と上達できる環境を作り上げる為のレッスンです。				
【後期】 36～39回目	フリースタイルで先生とディスカッション。最後は先生とフリースタイルで遊びましょう。 今まで得た知識や実力を全て見せて下さい。みんなが成長した姿を楽しみにしています。 現役のラッパーとディスカッションすることで刺激を与えられるよう、先生もがんばります。 40回目の授業で後期試験を行います。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	フリースタイルと聞いて、出来るかな？？となってしまうかもしれませんが1からしっかり教えますので心配しないで参加してください。楽しんで身につけていきましょ				
使用教科書	特になし				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	表現歌唱(ベーシック)Ⅱ	授業形態/必・選	実習	必修
	ヴォーカル歌唱課題曲(前期)		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数 2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 ☒	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験17年 大学で声楽を専攻し、卒業 ヴォーカルグループで活動し、番組音楽やスポーツ大会での国家斉唱、豪華客船での演奏など行う 現在は、アーティスト、アイドル、声優、女優、YouTuber、ライバー、インフルエンサー等お仕事で声を使う方へのヴォイストレーニングをメインに行っている				
授業概要					
・いくつかのテーマを設定し、それを学ぶ課題曲を各テーマに対してバリエーションを持たせた複数曲を提示、その中から個々の歌う曲を選び練習していく。 ・カテゴリによっては、自由曲から導入し、課題曲への興味を促す。					
到達目標					
歌としてやるべきことを散りばめた授業なので、設定されたテーマに沿った課題曲を歌うことで、各スキルを習得することを目標とする。					
授業計画・内容					
【前期】 1～5回目	・初回は授業内容説明と次回からの課題の提示。 ①共鳴のコントロール及び音域 ・伸びやかさ、柔らかさ、パワフル感を持って、高音域の歌い方、曲中の音程の変化に対する身体のコントロール方法。 ・共鳴の度合いを変化させ、その立体感と音程の変化の関連性の実践。				
【前期】 6～9回目	②16beat(ラップ系を含む) ・ダンスビートを主とした、16beatの曲を歌う。				
【前期】 10～13回目	③8beat (ハネ16 feelを含む) ・8beatの曲を歌う。				
【前期】 14～17回目	④テクニック ・比較的技巧派の曲を歌う。 ・未習得テクニックに関してはメソッドを行い、歌詞の解釈につなげる。				
【前期】 18～19回目	⑤ハーモニー ・パートナーとグルーヴを合わせ、ピッチ、リズム、テクニックの正確性を高める。				
【前期】 20回目	前期試験				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	学生へのメッセージ ・課題曲では各回のテーマを明確にクリアしていきましょう！ 【履修にあたって】 ・暗譜する ・授業内容をノートに書く				
使用教科書	・特になし				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	表現歌唱(ベーシック)Ⅱ	授業形態/必・選	実習	必修
	ヴォーカル歌唱課題曲(後期)		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数 2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当	☒ 非該当
担当講師 実務経歴	実務経験17年 大学で声楽を専攻し、卒業 ヴォーカルグループで活動し、番組音楽やスポーツ大会での国家斉唱、豪華客船での演奏など行う 現在は、アーティスト、アイドル、声優、女優、YouTuber、ライバー、インフルエンサー等お仕事で声を使う方へのヴォイストレーニングをメインに行っている				
授業概要					
いくつかのテーマを設定し、それを学ぶ課題曲を各テーマに対してバリエーションを持たせた複数曲を提示、その中から個々の歌う曲を選び練習していく。 ・カテゴリによっては、自由曲から導入し、課題曲への興味を促す。					
到達目標					
歌としてやるべきことを散りばめた授業なので、設定されたテーマに沿った課題曲を歌うことで、各スキルを習得することを目標とする。					
授業計画・内容					
【後期】 1～6回目	初回は授業内容説明と次回からの課題の提示。 ①共鳴のコントロール及び音域 ・伸びやかさ、柔らかさ、パワフル感を持って、高音域の歌い方、曲中の音程の変化に対する身体のコントロール方法。 ・共鳴の度合いを変化させ、その立体感と音程の変化の関連性の実践。				
【後期】 7～10回目	②16beat(ラップ系を含む) ・ダンスビートを主とした、16beatの曲を歌う。				
【後期】 11～14回目	③8beat (ハネ16 feelを含む) ・8beatの曲を歌う。				
【後期】 15～17回目	④テクニック ・比較的技巧派の曲を歌う。 ・未習得テクニックに関してはメソッドを行い、歌詞の解釈につなげる。				
【後期】 18回目	後期試験				
【後期】 19回目	⑤ハーモニー ・パートナーとグルーヴを合わせ、ピッチ、リズム、テクニックの正確性を高める。				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生への メッセージ	学生へのメッセージ ・課題曲では各回のテーマを明確にクリアしていきましょう！ 【履修にあたって】 ・暗譜する ・授業内容をノートに書く				
使用教科書	・特になし				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	表現歌唱(ベーシック)Ⅱ	授業形態/必・選	実習	必修
	AG&KEYⅡ_前期		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数 1単位
科目設置学科コース	シンガーソングライターコース、ヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 ☒	非該当
	アコースティックギター		キーボード		
担当講師 実務経歴	実務経験24年 1997年キューンSONYよりメジャーデビュー。 後に某TV番組にレギュラーギタリストとして1年間出演。 2000年以降はDAWアレンジ、トラックメイク、バンド、サポートギタリスト等で活動している。		実務経験15年 国内外のアーティストやバンドのサポートキーボーディストとして、各地でのワークショップやライブ、アレンジ、レコーディング等に携わる。 レッスンや指導も行う傍ら、自身のユニットでも活動中。		
授業概要					
	アコースティックギターとキーボードを隔週で受講する。 初心者から中級者に向けたアコースティックギターの扱い方。 色々なジャンルの弾き方。 DAWでの作曲におけるギターの扱い方。		アコースティックギターとキーボードを隔週で受講する。 1年生で習得した基礎を元に、様々なジャンルやスタイルに触れる。 コードワークを更に広げる。		
到達目標					
	テンションコード含めたコードワークに対応出来るようにする。 コードフォームを工夫したアルペジオ、カッティング。 3フィンガー、4フィンガー使い分け。ソロギター的なアプローチ。		弾き語りや自身の楽曲制作にキーボード楽器を積極的に取り入れ、作風や表現を広げていく。 コードアレンジができる。		
授業計画・内容					
	アコースティックギター		キーボード		
【前期】 1～6回目	レベルチェック及びそれぞれの音楽スタイルをチェック ・ベーシックなコードワークを確認 ・クリックに合わせたストローク、強弱も含めて演奏する		コードベーシックの確認 ・仕組み、転回フォーム、ダイアトニック、など ・それぞれの現状把握		
【前期】 7～11回目	ジャンルに合わせた演奏スタイル① ・ポップス(セブンスコード等の確認、シンコペーション含むリズム) ・フォーク(アルペジオ、伝統的な3フィンガーのパターン)		テンションコードのボイスン ・9th、13thなど フォームや使い方		
【前期】 12～16回目	ジャンルに合わせた演奏スタイル② ・ロック(ブリッジミュート奏法、パワーコードとブラッシング) ・ブルース(パワーコードの連結、ターンアラウンドの代表的なフレーズ)		コードアレンジ、転調 ・シンプルなメロディーにコード付けをしてみる ・キーチェンジのバリエーション		
【前期】 17～19回目	ジャンルに合わせた演奏スタイル③ ・ソウル(カッティング、コーネルデュプリースタイルのフレーズ) ・R&B(ハネるグルーヴ、スモールコード、デビッドTスタイルのフレーズ)		両手で作るリズム ・両手の役割、バランス、組み合わせのトレーニング		
【前期】 20回目	「前期試験」		「前期試験」		
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	アコースティックギター(なるべく)持参 ピックは必ず持参 未経験の人も楽しんで、ギターを通して様々なジャンルにも触れてみましょう！		沢山チャレンジし、吸収しながら更に自身の表現の幅を広げていってください！		
使用教科書	無し		必要に応じて課題曲の譜面配布		

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	表現歌唱(ベーシック)Ⅱ	授業形態/必・選	実習	必修	
	AG&KEYⅡ_後期		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	シンガーソングライターコース、ヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース					
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 ☒	非該当	
	アコースティックギター			キーボード		
担当講師 実務経歴	実務経験24年 1997年キューンSONYよりメジャーデビュー。 後に某TV番組にレギュラーギタリストとして1年間出演。 2000年以降はDAWアレンジ、トラックメイク、バンド、 サポートギタリスト等で活動している。			実務経験15年 国内外のアーティストやバンドのサポートキーボーディストとして、各地でのワー クショップやライブ、アレンジ、レコーディング等に携わる。 レッスンや指導も行う傍ら、自身のユニットでも活動中。		
授業概要						
	アコースティックギターとキーボードを隔週で受講する。 初心者から中級者に向けたアコースティックギターの扱い方。 色々なジャンルの弾き方。 DAWでの作曲におけるギターの扱い方。			アコースティックギターとキーボードを隔週で受講する。 1年生で習得した基礎を元に、様々なジャンルやスタイルに触れる。 コードワークを更に広げる。		
到達目標						
	テンションコード含めたコードワークに対応出来るようにする。 コードフォームを工夫したアルペジオ、カッティング。 3フィンガー、4フィンガー使い分け。ソロギター的なアプローチ。			弾き語りや自身の楽曲制作にキーボード楽器を積極的に取り入れ、作風や表現 を広げていく。 コードアレンジができる。		
授業計画・内容						
	アコースティックギター(前期復習を兼ねる)			キーボード(前期復習を兼ねる)		
【後期】 1～5回目	3フィンガーピッキングのバリエーション ・ハンマリング、プリング、スライドのテクニックの確認 ・開放弦の効果的な使い方			スタイル別のバックングリズムパターン① ・ロック(アップ、バラード) ・ブルース(シャッフル) ・ファンク		
【後期】 6～10回目	ジャンルに合わせた演奏スタイル④ ・ボサノバ(ベースノートと和音の組み合わせ方) ・ジャズ(複雑なコードのボイスン、6th 9th 11th 13th)			スタイル別のバックングリズムパターン② ・ソウル(ミディアム、バラード) ・ボサノバ(ラテン) ・ニューオーリンズ(セカンドライン)		
【後期】 11～16回目	アンサンブルの中でのギター演奏 ・ギター2本でのアンサンブル 実際に2本でやってみる ・DAW上でパートを重ねるコツ ・他楽器との調和を考えた演奏及びフレーズ作成			アンサンブルの中でのキーボード演奏 ・インプロビゼーション ・循環パターンのソロにチャレンジ		
【後期】 17回目	「後期試験」			「後期試験」		
【後期】 18～19回目	簡単なソロギターのアプローチ ・メロディを浮き立たせる強弱バランス ・クラシックギターの奏法を取り入れる ・アボヤンド、アルアイレの弾き分け			オリジナル曲または課題曲演奏、年間のまとめ		
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)					
学生へのメッセージ	アコースティックギター(なるべく)持参 ピックは必ず持参 未経験の人も楽しんで、ギターを通して様々なジャンルにも触れてみましょう！			沢山チャレンジし、吸収しながら更に自身の表現の幅を広げていってください！		
使用教科書	無し			必要に応じて課題曲の譜面配布		

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択ダンスⅡ(前期/後期)	授業形態/必・選	実習	必修
	ダンス基礎		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	38回(76単位時間)	年間単位数 2単位
科目設置学科コース	ダンスヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 ☒	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験 約13年 過去にコンテストなどの優勝経験あり。 有名アーティストのバックダンサーとしても活動し、TV出演も多数。 現在K-POPを主にインストラクターとして活動中。				
概要					
応用に繋がられるように基礎(アイソレーション、リズムトレーニング)などを行う。 いつでもステージやメディアに出演出来るような身体作り。					
到達目標					
振り覚えのスピードアップ、自身で1ナンバーの振付を完成。 ステージでのパフォーマンス力向上。					
授業計画・内容					
【前期】 1～4回目	身体を動かす時に必要な柔軟(ストレッチ)や体幹トレーニング。 トレーニングを活かした簡単な振付を行う。				
【前期】 5～8回目	アイソレーション(首、肩、胸、腰) 楽曲を使用してのコンビネーション。				
【前期】 9～14回目	アイソレーションⅡ(振付などに使われるウェーブの練習) リズムトレーニング(ダウン・アップなど) ステップ練習				
【前期】 15～22回目	リズムトレーニング(ステップで学んだものを振付に取り入れテストに向けて練習) 色々なテンポの楽曲で踊る。 22回目前期試験				
【後期】 23～28回目	K-POPのテンポの速い楽曲を使用し、振り覚えを早くする。 テンポを落とし、細かい動きを習得。オーディション対策。				
【後期】 29～32回目	長い振付を覚える。 覚えた上で更にステージングに必要な表現力を身に付ける。				
【後期】 33～36回目	自身で振付の作成を実施し、表現力の向上。				
【後期】 37～38回目	作成した振付に構成をつけ、更に発想力を高める。 38回目後期試験				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	現場での姿勢や、そのための実力を発揮できるように必要なスキルを学びましょう。				
使用教科書	特になし				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	表現歌唱(オーディション)Ⅱ	授業形態/必・選	実習	必修
	ヴォーカルテクニックⅡ		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数 2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース、シンガーソングライターコース、ギターヴォーカルコース、ダンスヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 ☒	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験29年。 音楽大学音楽教育学部卒業後、高校音楽科非常勤講師を経てダンスヴォーカルグループでの活動の他、アーティストのコーラスなどに参加。現在はアーティスト、ライバー、アイドル等のヴォイストレーニング、軽音部コーチなど後進の育成を手掛けている。				
授業概要					
一年次に習得したテクニックの復習と応用。歌詞やオケ(楽器)の演奏に対して必要な様々なテクニックを理解、習得し表現力を高め、伝える歌、感動を与える歌を創る。					
到達目標					
歌詞の世界観に相応しい表現を織り込み、「伝わる歌」を歌えることを目指し、技術の高い歌をどのタイプの曲でも歌えるようになることを目標とする。					
授業計画・内容					
【前期】 1～4回目	「自由曲の中でのアタック、アクセントの習得」の一年次の復習、修正 ・口の開きや動きの強弱と腹圧の関係 ・母音`子音`母音の流れに対する発音との関係 ・オケのリズムアプローチとの関係				
【前期】 5～8回目	「自由曲の中でのアップベンド、ダウンベンドの習得」の一年次の復習、修正 ・基本的なスケルトトレーニング ・フレーズを抽出、その中での実践 ・1コーラスでの実践				
【前期】 9～12回目	「自由曲の中でのヴィブラートの習得」の一年次の復習、修正 ・基本的なメソッドの修練 ・ハミングでの歌唱 ・フレーズでの実践				
【前期】 13～16回目	「自由曲の中でのエッジ、ウイスバーヴォイスの習得」の一年次の復習、修正 ・基本的なメソッドの反復 ・1フレーズを抽出、実践 ・1コーラスでの実践				
【前期】 17～21回目	「自由曲の中でのダイナミクス、クレッシェンドの習得」の一年次の復習、修正 ・共鳴の確認、副鼻腔・口腔・咽頭のバランスの確認 ・各共鳴腔の増減のコントロール ・フレーズ、1コーラスでの実践				
【前期】 22回目	前期試験				
【後期】 23～26回目	「自由曲の中でのファルセットの習得」の一年次の復習、修正 ・共鳴の副鼻腔・口腔内のバランスの確認 ・息の量の増減、そのコントロール ・ナチュラルヴォイス→ファルセット→ナチュラルヴォイスの切り替え				
【後期】 27～30回目	「自由曲の中でのプレスアビール、プレスカットの習得」の一年次の復習、修正 ・基本的なメソッドの反復、腹式呼吸との関連性 ・1フレーズの抽出、反復 ・1コーラス内での実践				
【後期】 31～34回目	「自由曲の中でのヒーカップ、フォールの習得」の一年次の復習、修正 ・基本的なメソッドの反復、ナチュラル→ファルセットの切り替え、音程の幅広い上げ下げ ・1フレーズ内での実践、テンポキープの確認 ・1コーラスでの実践、入れる場所を選ぶセンスのチェック				
【後期】 35～38回目	「総合①」学んだこと全ての確認、復習、修正				
【後期】 39回目	後期試験				
【後期】 40回目	「総合②」上の「総合①」学んだこと全ての確認、復習、修正の継続				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	一年次に習得したテクニックを更に確実にし、習得出来なかったものをそのままにしないこと。伝える歌には必要な“テクニック”があり、それが入れられていない歌は感動を与えることから遠ざかってしまうことに危機感を持ち、諦めないで何度も繰り返し練習しましょう。				
使用教科書	全コース共通の教科書を使用				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	ステージパフォーマンス	授業形態/必・選	実習	必修
	ステージパフォーマンス		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	80回(160単位時間)	年間単位数 2単位
科目設置学科コース	ダンスヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当 ☒	非該当
担当講師 実務経歴	実務経験17年 2009年、ヴォーカルダンスグループでTV局主催オーディションにてグランプリ獲得。 2011年、1stSingleを全国発売。解散後もグループ、コーラス、TV番組仮ヴォーカル・ライブ配信 ライバーやアイドルなど様々なアーティストのヴォイストレーニングも行っている。				
授業概要					
人前で表現する事の心構えや他者との協調性を学ぶ。					
到達目標					
ステージに立つ為の集中力、想像力、表現力、忍耐力等の習得					
授業計画・内容					
【前期】 1～8回目	【ヴォーカル・ダンス】歌・ダンスのオーディションを行い、1つのショーケースを創り上げるため、それぞれの役割を決める。ソロ曲の選曲・選抜ナンバーの選考などもオーディションの結果によって決定する。				
【前期】 9～24回目	【ヴォーカル・ダンス】グループでの曲選曲・メンバーに適している曲を選曲し、講師によるパート割、ハモリなどを行う。 ダンスは講師のアドバイスをもとにセクションに分け、学生それぞれで振り付け・構成を作っていく。				
【前期】 25～32回目	【ヴォーカル・ダンス】 パートや振り付けの完成度を上げる作業に入る。 お客様に見ていただくにあたり、最低限の表現力を身につける。 自身の役割の中でベストのパフォーマンスを身につける。				
【前期】 33～40回目	【ヴォーカル・ダンス】本番に向けての全体練習。作品に出演する為の他者とのチームワークを学ぶ。 振付・本番の流れを全員で揃えていく。通し稽古を開始。20回目前期試験				
【後期】 41～48回目	【ヴォーカル・ダンス】歌・ダンスのオーディションを行い、1つのショーケースを創り上げるため、それぞれの役割を決める。ソロ曲の選曲・選抜ナンバーの選考などもオーディションの結果によって決定する。				
【後期】 49～64回目	【ヴォーカル】グループでの曲選曲。 作品の内容に対しどのような楽曲が自分達に作品に適しているかを考え選曲する。 パート割をし、主旋律、ハモリなどそれぞれ入れていく。 【ダンス】グループに分かれて振付を考案				
【後期】 65～80回目	【ヴォーカル・ダンス】本番に向けての全体練習。作品に出演する為の他者とのチームワークを学ぶ。 振付・本番の流れを全員で揃えていく。通し稽古を開始。76回後期試験				
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)				
学生へのメッセージ	大人数で授業を行う事で協調性を養い ダンス&ヴォーカルで1つの作品を創り上げるうえで必要な事を学びます。				
使用教科書	特になし				

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	アーティスト実地演習Ⅱ	授業形態 / 必・選	演習 必修						
	アーティスト実地演習Ⅱ		年次	2年次						
授業時間	180分(1単位時間45分)	年間授業数	8回(32単位時間)	年間単位数	2単位					
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース									
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐									
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。									
授業概要										
それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。										
到達目標										
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。 企画、立案、進行等、インプット・アウトプット能力の向上。										

授業計画・内容	
1回目～5回目	ESP学園主催イベント①～⑤
6回目～7回目	コースイベント①②
8回目	コンテストファイナル
評価方法	平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	この演習を通じて、現場における流れや、他社とのコミュニケーションの仕方等確りと学んでください。
使用教科書	当日の役割分担表、業務要項等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択キーボードⅡ(前期)	授業形態 / 必・選	実習	選択		
	選択キーボードⅡ(前期)		年次	2年次			
授業時間	90分(1単位時間45分)		年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位	
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース						
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目					該当 ☒	非該当 ☐
担当講師 実務経歴	実務経験25年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。						
授業概要							
基本的なコード演奏や進行を学ぶ。 また、それに伴って基礎的な音楽理論を学ぶ。							
到達目標							
キーボード演奏を通じて、自身のアーティスト活動の表現力の幅を広げる。							

授業計画・内容	
1～3回目	スケール練習とともにKeyの基礎知識を確認する。 ダイアトニックコードについての説明。それを課題曲に活かしていく。
4～6回目	スケール練習を続けていく。さまざまなテンポ、リズムで弾いてみる。 コードの転回形を学ぶ。講師が書いたコード進行を見て、転回形を考えて弾く練習。
7～9回目	右手でコードを押さえ、左手でリズムパターンのはっきりしたベースを弾く練習。 学生同士で左右の役割を分けて、アンサンブルのように練習してみる。
10～12回目	4種類のストロークの説明、使い方。 ストロークの使い分けを用いたアクセントストローク(8分、3連、16分)。
13～16回目	印象的なイントロのついている曲を課題とする。 ピアノらしいイントロの練習。コードをアルペジオにして演奏してみる。
17～19回目	アルペジオで弾くことで、指の動きの練習に結びつける。 一人で左右とも違う動きができるように練習する。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあると思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	学則表記	選択キーボードⅡ(後期)	授業形態 / 必・選	実習	選択					
	選択キーボードⅡ(後期)		年次	2年次						
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位					
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース									
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 ☒ 非該当 ☐									
担当講師 実務経歴	実務経験25年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。									
授業概要										
基本的なコード演奏や進行を学ぶ。 また、それに伴って基礎的な音楽理論を学ぶ。										
到達目標										
キーボード演奏を通じて、自身のアーティスト活動の表現力の幅を広げる。										

授業計画・内容	
1～3回目	キーボードの機能について学ぶ。スケール練習を中心に練習。 ダイアトニックコードについて知り、それを課題曲演奏に活かす。
4～6回目	スケール練習の継続、リズムやテンポを変えた練習。 コードの転回形を学ぶ。
7～9回目	リズムパターンのはっきりしたベースラインを演奏する。 あわせて右手でコード演奏を行い、形にする。
10～12回目	課題曲をもとに反復練習、必要に応じて講師による講評
13～16回目	ピアノの特性を活かしたイントロ演奏。コードをアルペジオに変えた演奏。
17～19回目	アルペジオ演奏を通じて、運指のトレーニング。 一人で左右とも異なった動きができるよう反復練習。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあると思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。